



プラチナ再生可能エネルギー産業イニシアティブ

フェーズ2のご案内

コンセンサス分科会

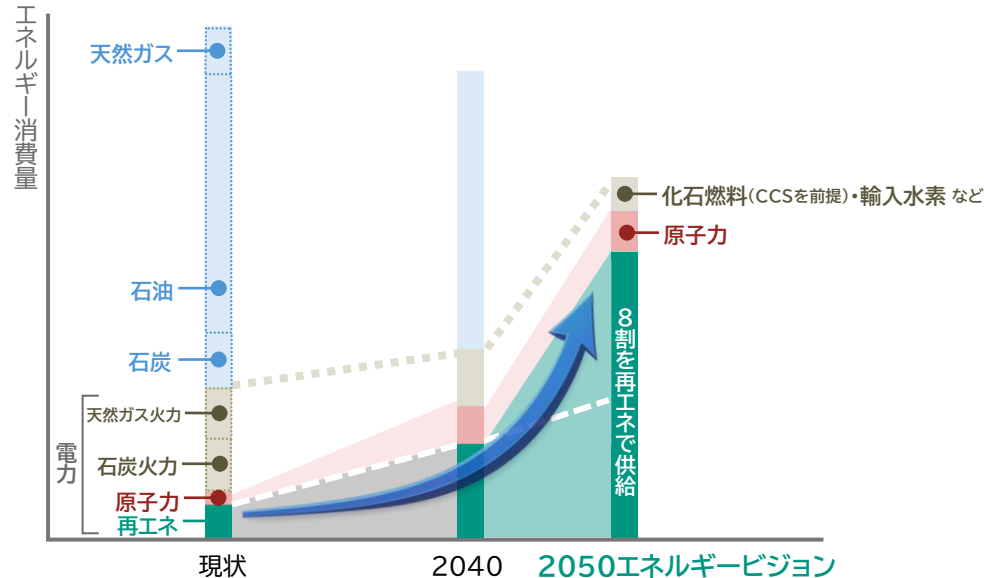
一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

2026年5月

検討目的

前提 「2050エネルギービジョン：2050年の脱炭素社会を実現するため、2050年すべてのエネルギー需要量の約8割を国内の再生可能エネルギーで賄うこと」の理解者・賛同者を増やし、脱炭素社会を実現を目指す。

- 脱炭素社会実現のためには、**フォアキャスト**で予想する再生可能エネルギー量では大幅に不足することと、バックキャストの経路で再生可能エネルギーの導入を進めなければならないことの**理解を広げる**。
- 取り組みの開始が遅れるほど、脱炭素社会の実現は厳しくなる。化石資源中心の文明からいち早く脱却し、再生可能エネルギー中心の文明へ転換する、すなわち早期に再生可能エネルギー導入促進の**取り組み、実装につなげる**。



検討成果

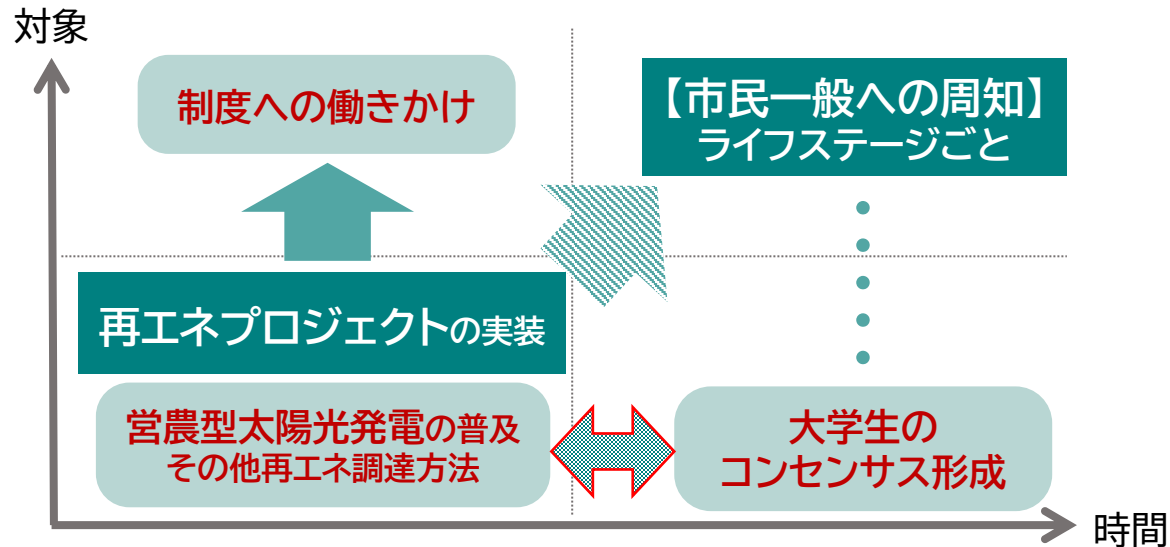
- 営農型太陽光発電社会実装推進コンソーシアムの支援
- 大学生等を対象とした働きかけと関係構築
- プラチナ事業への組み込み、当イニシアティブ参加団体等との連携

着眼点

- 「『2050エネルギービジョン』：脱炭素社会の実現・採掘文明からの脱却と再生可能エネルギーへの転換と物質循環社会の構築が、地球を救い、より豊かな生活につながる」ことへの理解促進
- 早期のバックカスティングへ転換・再生可能エネルギー導入の必要性の理解促進
➔ 営農型太陽光発電の社会実装に賛同いただき、事業化を進める
- 地域分散型エネルギーシステムの普及、市民の再エネ導入を促進する方策の活用を推進

取り組み内容のイメージ (Phase2)

Phase2では、**営農型太陽光発電**の社会的合意形成の活動を推進する。大学生のコンセンサス形成に関しても「2050エネルギービジョン」に加え、**具体的取り組み**である**営農型太陽光発電**を位置付ける。



- 活動内容:本イニシアティブの目標とその考え方、実施方針等に基づく
- コンセンサス分科会の具体的取り組み

実施内容1 営農型太陽光発電社会実装推進コンソーシアムの支援

1) 営農型太陽光発電普及に係る課題の把握

営農型太陽光発電の普及の障害となる主に社会的合意形成に係る課題を把握

① インタビュー: 営農型太陽光発電実施者、企業、農業関係者、自治体等 (コンソーシアム関係者等)

↳ 主な項目: 導入のきっかけ、導入時の課題(合意形成、政策面、技術面など)、営農・事業継続面での課題

② 文献・政策動向を調査・把握

③ 大学生等へのインタビュー・大学生によるディスカッション ※次頁「実施内容2」と連携

主に①で把握された課題や農業の将来等について、若者視点の課題・アイデア抽出

2) 対応策の検討・実施

1)を踏まえ、社会的合意形成の課題を解消するために必要な普及活動、また規制緩和・政策提言等を検討し実施

- 関係者の理解醸成のためのビジョンの概要やメッセージを検討、発信する
- 規制緩和・政策提言案を検討し、関係省庁に提出する。
 - 農林水産省 営農型太陽光発電、農地、農業等に係る施策、規制 など
 - 経済産業省 営農型太陽光発電に係る業者、設備 など
 - 環境省 環境影響評価、景観条例・地域条例、地域脱炭素促進区域制度 など

実施内容2 大学生等を対象とした働きかけと関係構築

1) 大学、学生団体等との連携、関係構築

ビジョンや、営農型太陽光社会実装推進等の社会的コンセンサスを得るため、大学や学生団体等へ協力を依頼
 ※ 高校生、専門学校生へも、機会を捉えて働きかけ実施

2) 大学生等の社会的コンセンサス形成活動の検討・実施

いかに人々を巻き込めるか、自発的な関心をもたせるか、がコンセンサス形成を目指す上での鍵

〔実施案〕 営農型太陽光発電を促進するための「レトリック」に関するコンペ、受賞シンポジウムの実施

ポイント

- 「意識の高いFirst mover→意識の低い一般学生」といった垂直的な働きかけ、One-way communicationではなく多様なプレイヤーが水平的に参加・交流する(したくなる)場をつくるしかけとして位置付ける
- 自ら「2050エネルギービジョン」や営農型太陽光発電、農業に関して知りたくなるしかけをつくる
- 学生グループ、学生を主体に企画、運営。他大学団体等とのつながりも考慮

- i) 概要
- ・ 優秀作品については魅力的な賞品を出す 例:「電力も農産物である」(クボタ辻村氏)
 - ・ 企業等に賞品を提供してもらう (企業活動の認知拡大につなげる)
 - ・ 受賞シンポジウムでは営農型太陽光発電に係る専門家や企業も参加、コメントをもらう、交流の機会を設ける
 - ・ 一般市民の参加があれば、年齢ギャップ問題(世代間の相互誤解)を減らす機会となる可能性
 - ・ コンペ、シンポジウムはメディアに周知
 - ・ コンペ後、「レトリック」をキャンパス内で活用。その後は学生団体等の自主的活動に委ねる
- ii) 学内周知方法 ①学内通常メディア利用、②ウォーターサーバー設置場所や大学生協などでのメッセージ(人がしばらく滞在する自然な場所における”淡いネットワーク”を通じた情報普及)、③学生グループからの発信
- iii) 実施大学・第1弾 東京大学 GX戦略推進センター・大学GX学生ネットワーク
 ・ 第2弾候補 千葉大学、東京都市大学等 (実施内容は各開催団体等と調整)

実施内容3 当会事業・当イニシアティブとの連携

1) 当イニシアティブとの連携

当イニシアティブ参加団体と連携し、社内研修での紹介依頼等を行う。

2) 当会事業への組み込み・継続的な発信

当会人財育成事業: プラチナ構想スクール(対象:自治体中堅職員)

プラチナ未来人財育成塾(対象:中・高校生、チューター:大学生・シニア)

人財産業イニシアティブ(今後立ち上げ予定)

その他事業: 懇談会、各種イベント 等

今後の予定

分科会は全3回、各回の実施内容は下記を想定

<p>第1回 6/1(月)14時～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2050エネルギービジョン」とフェーズ2基本方針の共有 ● コンセンサス分科会実施内容の共有、議論
<p>第2回 9月下旬頃</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● インタビュー等、調査結果の報告 ● 各活動の状況報告、議論
<p>第3回 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2050エネルギービジョン」及び営農型太陽光発電の社会的合意形成に係る活動の報告、議論 ● ロードマップの共有、議論